

## いわき市復興ビジョン～日本の復興を「いわき」から～策定にあたって

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から、半年が過ぎました。

この震災により、お亡くなりになられた方々に対しまして、改めて追悼の意を表しますとともに、被災された皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。

今回の大震災で、本市は甚大な被害を受けましたが、私は、震災の発生から今日まで、市民の皆様の「ふるさといわき」を守ろうとする気概や、復興に向けた熱い想いを直接肌で感じてまいりました。

これは、本市の高い地域力の表れであり、復興に向けて、大変心強い原動力となるものと考えております。

また、この間、全国、ひいては世界中の方々から、義援金や救援物資、人員の派遣など、暖かいご支援をいただきますとともに、市内外のボランティアの皆様からも大きなお力添えをいただいております。心から厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、戦後の復興の兆しが見え始めた昭和 30 年代、エネルギー革命の進展により、我が国の発展を支えていた石炭産業が斜陽化し、本市を中心とした地域の経済も大きな打撃を受けました。

そのような中、私たちの先人は、「新産業都市」の指定を受け、当時としては例のない 14 市町村による大同合併を成し遂げ、日本一広い「いわき市」を誕生させたほか、映画「フラガール」にも描かれたように「炭鉱」から「観光」へと地域の再生を果たしました。

今回の災害は、皮肉にも、また「原子力」というエネルギーが大きく関わっています。千年に一度といわれる大地震や大津波に、原子力災害が重なった未曾有の複合災害を克服することは容易ではありませんが、この地域の再生は、ここに暮らす私たち自身がやり遂げなければならないのです。

先人の想いを、さらには亡くなられた 300 名を超える市民の皆様の想いを引き継ぎ、そして私たちの今の想いを未来に引き継いでいくために、手を携え、安全で安心して住み続けることができるまちを、そして活力に満ち溢れたまちを創り上げていきましょう。

この「ビジョン」が、市民の皆様の「希望」となり、復興への「道しるべ」となることを心から願います。

平成 23 年 9 月

いわき市長 渡辺敬夫